宮崎県立看護大学大学院看護学研究科
平成２３年度修士論文要旨

学生の看護基本技術の修得過程の特徴
—無菌操作に関する技術に焦点をあてて—

勝野絵梨奈（基礎看護学）

【キーワーズ】 看護技術教育，無菌操作技術，看護技術の立体像，修得過程，学習初期

本研究の目的は，無菌操作が必要な看護基本技術の修得過程において，学生の認識と行為の特徴を浮き彫りにし，修得過程の特徴を明らかにすることにより，看護技術教育における指導の方向性への示唆を得ることである。研究対象は，看護大学2年次の学内演習「看護方法Ⅱ-1」および「看護方法Ⅱ-2」において，筆者が直接担当し，継続的に関わった学生8名の，無菌操作が必要な看護基本技術の修得過程である。

研究方法は，まず，個別指導が必要と思い関わった場面についてプロセスレコードに再構成した。次に分析フォーマットを作成し，再構成した45場面について，「患者の安全の脅かしにつながると思われた行為」「教員の認識に反映した学生の事実」から，「学生の認識と行為の特徴」を取り出した。さらに，各学生において，取り出されたすべての「学生の認識と行為の特徴」から，無菌操作技術の修得過程の特徴を取り出し，8名の学生の修得過程の特徴を比較検討した。その結果，無菌操作が必要な看護基本技術の修得過程において，共通する学生の特徴として以下のことが明らかとなった。

〈学習初期〉

・無菌操作技術が「感染経路を遮断する」ことを目的とした行為であると定まらず，個別な関心に沿った行為となる
・行為の全体的な状況を反映できず，自身の着目した部分の行為に集中する
・学生の位置から，主体的に患者・看護者の位置へ立場の変換を行えず，看護者として患者に向かう責任の自覚が乏しい
・学習した専門知識を呼び起こすことができず，看護の専門家としての視点から現象の意味を描くことが困難となる

〈学習中期，学習後期〉

・自己客観視能力が高まると，主体的に自己の行為の意味を無菌操作の目的に照らして考えようとする
・技術の性質が複雑になり，修得に困難さを感じると，学習初期でみられた特徴が繰り返されやすい

以上の結果をふまえ，看護基本技術の修得上の特徴が顕著に現れる学習初期に焦点をあて，無菌操作の立体像の形成過程に関わる諸条件について吟味し，修得過程を促進するための指導の方向性を考察した結果，下記の6項目の示唆を得た。

1．学生が行為を行っているとき，行為の様子や学生の表現などの事実を手がかりに，学生の認識に，専門知識に基づいて行為と意味と目的が立体的な構造として描かれているかを予想する
2．必要な専門知識を，他領域での学びも重ねて想起させながら，清潔—汚染の判断を問いかけることで，行為の根拠を自覚させる
3．部分の行為を行っているときは，その行為を技術全体の流れの中で位置づけられるよう促す
4．目的に反した行為となっていたら，積極的に自己の行為の客観視を促し，その時の認識に注目させ，看護者としての自覚を促す
5．行為の先には患者がいることが実感できるよう刺激し，患者の位置へ意識的に移らせ，追体験や観念的追体験を積極的に促す
6．自己の行為の意味を，目的に照らして患者の位置から評価させる